

解答

一

- 問一 1 親身 2 従事 3 敵 4 臨〔んだ〕 5 ひょうり 6 いちもつ
7 かな〔でる〕 8 た〔つ〕
問二 1 てん 2 もく 3 ひ 4 き
問三 1 まくら 2 はし

二

- 問一 エ
問二 ア
問三 毎日のように新しい経験や感動にあふれていた時間。
問四 本当の自分自身
問五 イ
問六 5 離れた町からなつかしむ生まれ育った所。
10 子どもの頃の気持ちに戻る心地よい所。
問七 ウ
問八 先延ばしにしているうちに親が亡くなってしまったら後悔することになるから。
問九 ウ
問十 山積する仕事や心を騒がせることから解放され、子どもの頃のように心地よくなること。

三

- 問一 イ
問二 厄介なやつ
問三 エ
問四 イ
問五 エ
問六 ウ
問七 ア
問八 人から感謝されたり称賛されたりする度に、そうでない自分の嫌な部分が自覚され、健気な孝行娘という評価は偽りだと感じてしまうから。
問九 ア
問十 イ
問十一 ウ

解説

二

- 問六 5は、筆者が生まれも育ちも今住んでいる場所も横浜であるので、離れたところにあるという意味での故郷がないということを表しています。
10は、「ふと子どもの頃の気持ちに戻っていく。本当に心地よい時間はそこにある」という意味での故郷を表しています。

三

- 問八 続く部分に「自分の内に悪意や憎悪がある。支配欲があり卑劣がある。誰も知らなくても、自分自身がわかっている。美鈴はそれらを見据えている。目をそらして、家族の感謝や世間の称賛に身を預けない。健気な少女を演じない」とあります。感謝や称賛を受ける美鈴は偽りであり、そうでない自分をこまかさないうで生きていきたいと美鈴は思っています。